

議事録	
件名	第7回にかほ市風力発電に係るゾーニング協議会 議事録
日時	令和2年7月16日(木) 14:00~16:00
場所	にかほ市象潟庁舎 大会議室
出席者	にかほ市風力発電に係るゾーニング推進協議会会員名簿
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議事次第</li> <li>・会員名簿</li> <li>・資料1:今年度の事業計画について</li> <li>・資料2:ゾーニングマップ(案)の更新について</li> <li>・資料3:過年度協議会意見への対応について</li> <li>・資料4:ゾーニング報告書(案)中間とりまとめ</li> <li>・別紙資料1:工程表</li> </ul>
結 果	
<p>(1) 今年度の事業計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料1:今年度の事業計画について</li> <li>・別紙資料1:工程表</li> </ul> <p>・【加藤委員】コウモリ調査に関して、コウモリ類の有無、活動時間、季節変動等を把握し、適切な調査手法、調査時期を把握することを目的としているが、活動範囲や飛行ゾーンを割り出すことも今回の目的としているのか。</p> <p>⇒【委託事業者】活動範囲について、固定点で測っているため、範囲自体は把握することができないが、固定点の植生等の環境をもとに生息環境を整理することとしている。飛行ゾーンについて、上空30メートルぐらいまで測れる機械となっているが、それ以上の100メートルなどといった上空については、現在の設定では把握できない。</p> <p>一方で、St1の眺望台は標高差の大きい地点を選んでいるため、高いところを飛ぶ可能性のあるコウモリについては、ある程度測ることができると考えている。</p> <p>⇒【加藤委員】バットストライクを起こすことが心配で調査を行っていると思うが、30メートルだとブレードの回転範囲より低いのではないか。一般的にコウモリの種類が分かれば、どのぐらいの高さを飛行するかということは文献から把握できるかもしれないが、調査方法と調査の限界というものを調査結果に明記していただきたい。</p> <p>⇒【事務局】コウモリ類調査の目的としては、バットストライクを完全に防ぐようなマップづくりはできず、生息状況を把握し、そのデータを参考に本格的な調査をしっかりといただくためのものとなっている。加藤委員のご意見の通り、調査の限界を示して詳細な調査を促すことなどが重要と考えるため、対応していきたい。</p> <p>⇒【委託事業者】事務局同様、留意事項として申し送るということは必要だと考えている。</p> <p>⇒【丸山会長】コウモリに限った話ではなく、ゾーニングは基本的に手元にあるデータに基づいて実施するものであり、本格的な調査を事業者が実際にやる場合、事業者の責任で詳細調査に取り組んでもらう。前提条件の提示や調査限界などは報告書を作成する際に記載して頂ければと考えている。</p> <p>・【中村副会長】ワークショップの対象者はどのように選ぶのか。例えば、事業説明会の参加者から第1回ワークショップの希望者を募集するとあり、極端な風車反対派の人が参加するなどの可能性が考えられるが、できれば中立な参加者を選ぶことはできないのか。例えば、促進エリア近傍の自治会をヒアリング対象としているが、自治会から中立な人を選んでもらうなどはできないか。</p> <p>⇒【事務局】事業説明会は市の広報誌と同時配布でチラシを配り、条件等なく自由に参加していただく。その中から希望する人を対象として、第1回ワークショップおよび風車見学会を実施することを考えている。その際の募集において、中立の立場の人のみという条件を付けて参加者を募集することや、自治会に対してそのように要請することは難しい。</p> <p>今回の事業説明会は、中立の立場の人というよりも、プラスにせよマイナスにせよ風車に対して関心の高い人しか参加しないと思われるが、皆さんに市の考え方や正しい知識などをしっかりと説明したいと考えている。</p> <p>一方で、自治会にお声がけをすることについては検討の余地があると思われ、例えば自治会に開催案内を送付するなどには検討できると考える。</p>	

- ・【辻委員】観光協会の考えとして、既存の風車を観光資源として活用したいと考えており、事業者からいただいた航空写真などの資料等のファイルを作成している。風車見学会では、観光協会の職員や観光案内の代表者を同席させたいと考えている。  
⇒【事務局】事務局としては是非お願いしたい。風車見学会は、騒音・景観に対する風車のマイナスイメージが非常に強いというなかで、実際に見てもらったうえで、その場で感じたことや、率直な意見を聴取することが目的であるが、観光協会としてそのようなお考えがあれば、是非参加してもらえたらと考えている。  
⇒【辻委員】案内人も職員も実際に体験して、それを踏まえたうえで、観光資源にするということを検討していきたい。  
⇒【丸山会長】補足ですが、資料にある通りテキストを作成する予定であるため、その中でにかほ市の風力発電の現状やその観光資源化を盛り込み、情報提供できると考えているため、ご相談させていただきたい。

## (2) ゾーニングマップ(案)の更新について

- ・資料2:ゾーニングマップ(案)の更新について
- ・【温井委員】景観分析の考え方として垂直見込角を使っていて、角度が大きいことが悪いという考え方が前提となっているが、それがそもそも違うのではないかと考えている。にかほ市の景観計画における風に見える丘ゾーンは、風車を推奨する景観となっている。普通の地域では、風車が見えることはマイナスだが、にかほ市では風車が見えることがプラスになっている。今回の景観シミュレーションは、風車がマイナスとしての評価しか出ておらず、これは少し違うのではないかという気がしている。  
仁賀保高原において風車が魅力的に見える景観要素は三つある。一つは風車、一つは鳥海山、もう一つは自然風景(杉の人工林、広葉樹林、採草牧草地)であり、この三つは取り合わせがよい。さらに付け加えるなら牧場の西洋風の建築物があり、これらと調和している風車はプラスに働くが、そうでない組み合わせもあり、市街地や歴史的な名所が該当する。九十九島といった芭蕉にちなんだ場所や鳥海山を望む景観に風車が入ると、マイナスになる。市街地も普段見ている歴史的な景観であるため、風車との組み合わせは良くない。こういったことを仕分けて分析する手法が必要と考えている。また、眺望点が挙げられている地点でいいのかということもあり、根本的に考え直さなければいけない。  
加えて、景観ワークショップと景観モニター調査のやり方もよく考えなければならない。風車を見に行くときは、風車がプラスとマイナスの両方に働くということを把握したうえで案内し、参加者に理解してもらう必要がある。そのときには水平の視野角が効いてきて、例えばある地点から見て、鳥海山や市街地または九十九島が見える場合、それらが 180 度反対側に見える場合にはあまり問題はない。それでは何度離れたら問題ないのか。30 度ぐらいでは一緒に見えてしまってもうまいかないが、だんだん角度が開いてきたら別々のものとして見える。あるいは首を振らないと見えなくなり、そういった場合は、あまり影響はないのではないか。こうした景観の分析をする必要があると考えており、なかなか難しいかもしれないが、もうひとひねり方法を検討していただくとよい。  
にかほ市は普通の地域と違って、風車が推奨されるエリアを景観計画で謳ってあることが特徴であるため、それを活かした景観シミュレーションが必要だと思っている。  
視点場の位置が 5 地点設定してあるが、歴史的なものや風車が一緒に見えると取り合わせが悪いため、そうした視点場というのはよく考えなければならない。また、市民から挙げられた何気ない場所についても、九十九島のように重要ではないからといって切り捨てず、保全エリアと促進エリアの間の微妙なところを丁寧に扱ってあげた方がよいのではないかと考える。  
⇒【事務局】過年度の協議会で決まったように、ゾーニング事業での景観の扱いは、策定中の景観計画をそのまま取り入れることとしていた。この景観調査等は参考情報であり、あくまでもレイヤー情報は景観計画をそのまま取り入れるという方針を前提としている。  
その後、住民アンケート等により、景観に関して様々な懸念があることから、その懸念に対する対応として景観シミュレーションを行っている。  
垂直見込角の考え方の前提が悪いということと視点場の設定については、個人的に鉄塔の見込角の基準を引用することによってマイナスイメージをもたれるのではないかと思う。  
⇒【温井委員】鉄塔の参考資料についてはあれでよいと考える。それよりも風車とのとりあわせといった社会的な問題については、単純に物理的な見え方の角度だけでは考慮できない。  
資料では、見える、見えないという分析の対象を鳥海山一つに設定しているが、対象を二つにして分

析する必要があると思う。つまり、鳥海山と市街地が両方見える場所を分析する必要があると考えている。

また、資料 P15 のゾーニングマップ案における景観の扱いについて、景観的に大事な場所に点数を与えているが、それとそぐわない点もある。景観は視点場と対象の関係で成り立つものであるため、点数化して足し算することはどうかとも思う。今回参考図として扱っているが、非常に重要であると考えている。というのも、風力発電の計画やアセスメントにおいて、一般市民が一番気になっていることが景観の話であると思うため、非常にデリケートな問題であり、どういう扱いをしたしたらよいか、うまくやっていたらとよいと考えている。

⇒【委託事業者】ゾーニング報告書においては、景観調査地点の 15 地点となるが、今回の景観シミュレーションの結果を示す前段に、各景観の現況を整理して示す予定としている。そこで、風車と取り合わせがよい景観であるのか、市街地や歴史的な名所がある取り合わせの悪い景観であるのか、整理することは可能であると考えている。その現況の整理と併せて、今回の景観シミュレーション結果を目安として扱いで示したいと考えている。

⇒【丸山会長】景観計画が大前提であり、温井先生がご指摘されていることは若干事業アセスメントのやり方にかかるところもあり、おそらくそれを踏まえた眺望点の設定となる。

今回のゾーニングにおいては、景観計画のなかで重要な眺望点として指定されたものについて、サブマップとして位置付けるという整理となっている。ご指摘の人工物と歴史的景観との組み合わせについては重要な知見であり、テキストとしてまとめる際に入れ込むべきものであるため、その際に先行研究などお持ちであれば情報提供いただければと考えている。

水平の視野角については、実際の人間の視野角があると思うが、こちらはゾーニング報告書において、事業者のためのさまざまな参考情報、にかほ市では配慮した方がよいという情報を記載するパートを作成すべきと考えている。ゾーニングマップの活用の仕方になるが、そういうところに入れ込むべき貴重なご意見だというのが私の理解である。

⇒【事務局】事務局としては、丸山先生のご意見でやらせていただきたいと考える。あくまでゾーニングに関する景観については景観条例をベースとし、ダブルスタンダードとなることは避けたい。

一方で住民の懸念材料があるので、それはあくまでサブマップとして事業者に示し、配慮すべき情報にしたいと考えている。あとは丸山会長が仰られた通り、ゾーニング報告書等に温井先生が懸念されることの記載をする工夫ができると考えており、対応していきたいと思う。

⇒【温井委員】一委員としては了解である。気になるのは、環境省として問題はないかということ、アドバイザーボードの東京農大の荒井先生から指摘はないかということである。荒井先生は論文も書かれて、研究されていると思うので、今日の話は荒井先生の耳に入れていただき、先生の方から関連研究などがいただけないかと考えている。

⇒【事務局】荒井先生に今回の議事録を見ていただくなど、事務局の方からアクションをおこしていきたい。

⇒【丸山会長】あとで出てくる騒音の問題とも絡むが、安全側はいくらでも安全側にできるが、緩める側にどう線引きするかは難しい。全体的に、厳格な規制としての線引きではなく、目安情報としての示し方をして、個別の案件によっては許容することもあり得るといった情報の出し方となっている。

⇒【中村副会長】最悪な状況を想定した評価と考えるべきと思う。先生が仰るとおり、景観にプラスになることもあるけれど、最悪の状況を想定して分析しているのだと、つまり一番厳しい評価なんだと理解すればよいのではないかと個人的には考えている。

- ・【温井委員】P16 のゾーニングマップ案について、海のところに促進エリアが何箇所かあることが少し気になっている。にかほや山形県側の遊佐町方面にとって、古来より現在に至るまで鳥海山は一番大事な景観である。鳥海山イコール神様であり、今でも大事に思われている。同様に、海も古来より大事に考えられているのではないかと。なまはげは海からやって来る。村上市の市史によると、栗島の沖において補陀落渡海という話がある。そういう場所としての海があったのではないかと考えている。今は忘れられているかも知れないが、意識の深いところで海は非常に大事な場所である可能性があるため、丁寧に考えた方がよいのではないかと。

⇒【事務局】資料には載っていないが、以前お配りした住民アンケートの結果では、海を重要な場所として捉えている方が多くいらっしゃった。洋上風力発電計画の件があるため、それを気にしてのことと思われるが、大事だと考える場所として海が多く回答された。一方で、資料 P16 の海に促進エリアが存在するように見えることは、500 メートルメッシュで区切っていることによって海側にはみ出しているという、事務的な問題であると思われる。

⇒【委託事業者】その通りである。海側に出ているように見えるが、実際は陸地が重なっているため陸地扱いとしてメッシュを区切っている。

⇒【事務局】我々が疑問を抱くものであれば、住民の方も同様の疑問を抱く可能性がある。その他のメッシュがはみ出している箇所を含めて事務局で注意していきたいと考えている。海に促進エリアがあると思われることは避けたい。

- ・【杉本委員】アンケートにおいて廃校が重要という回答があったとのことだが、にかほ市にとって廃校は重要な場所であるのか。

⇒【事務局】にかほ市の住民感情として、廃校は重要な場所なのではないかと考える。子供の数の減少により、この5～6年間で廃校の数が増加しており、学校に思い出のある卒業生が多い。

また、にかほ市においても、廃校を活用して人口減少に立ち向かう地域活性化事業を実施しており、その取り組みによって、廃校がそのまま変わらずに活用されて嬉しい、という方が多くいらっしゃるとう聞いている。そういったことから、廃校は重要な場所ではないかと考えている。

⇒【杉本委員】時間がたっていないため、住民とのつながりがあるということか。

⇒【事務局】その通りである。

- ・【丸山会長】湧水についてはデータ確認中ということよろしいか。

⇒【事務局】その通りである。

### (3) 過年度協議会意見への対応について

- ・資料3: 過年度協議会意見への対応について

- ・【加藤委員】P6のNo7について、事業者に配慮を促すことが対応とのことであるが、事業者が調査を行わなくてもよいという意味であるのか、調査を行うことを条件とするという意味であるのか、配慮という言葉が曖昧であるため、よく検討していただきたい。

また、P2の影鳥海の影鳥海の出現時期が9月上旬～10月上旬とあるが、7月～8月も見えると思う。ただ、角度が問題で影響がないというのであれば構わない。

⇒【事務局】配慮の言葉については、曖昧さをなくす表記となるよう努めたい。また、7～8月にも影鳥海が見えるかもしれないということについて、時期によって角度は変わるのか。

⇒【委託事業者】現在取得した情報では、9～10月のみの現象と思われる。追加で調査を実施する。

- ・【丸山会長】小型風車の扱いについて、にかほ市のガイドラインでは小型も対象となっているのか。

⇒【事務局】小型風車のみが対象というわけではなく風車規模の記載がある。

- ・【丸山会長】離隔距離については、3本の離隔距離を示すということによいか。

⇒【事務局】補足すると、にかほ市は騒音に対して関心の高い地域であり、2～3キロメートル離れていても被害があるという話も聞いている。そのような地域性を踏まえ、否定的な意味のサブマップではないということの大前提とした上で、離隔距離の情報を示すことは重要であり、サブマップとしたいというのが市の考えである。

なお、離隔距離800メートルは環境省の確認を得ている見解であり、それに風車の大型化を踏まえて1,000メートルを加えたほうがよいと考えている。また、500メートルはガイドラインの基準であるため外せないと考えており、この3本の離隔距離を示すことが市としての意見である。

⇒【丸山会長】NEDO実態把握調査というのが、現段階において、日本でそれなりの規模で事後調査が実施された唯一のものであり、20プロジェクトほどが対象となっている。さまざまな立地条件のプロジェクトを抽出して、全てにおいて残留騒音プラス5dBの基準をクリアできそうな距離というのが800メートルとなっているため、それなりに再現性のある値であると考えてよいと思う。大型化を踏まえた距離を設定するのであれば、800メートルという値がどれぐらいの規模の風車を基に得られた調査結果であるかということは、サブマップの注記欄など、報告書に記載すべきである。

### (4) パブリックコメントの実実施計画について

- ・資料4: ズーニング報告書(案)中間とりまとめ

- ・【丸山会長】資料4そのものではないにせよ、それに準じる資料をパブコメの対象とするのか、それとも地

図だけを対象とするのか、そこも要協議か。

⇒【事務局】そう考えている。意見をもらうことが目的であるが、地図だけを公表した場合にどのような検討を経て地図ができていくのか分かれなければ、意見のしようがないのではないかと考えている。どの部分を公表するか精査が必要である。

- ・【加藤委員】縮尺が統一されていない図があり、ゾーニングマップと比較しにくい。比較しやすい形に修正するとともに、調査結果が活かされていることが一般の方々に理解できるようにしていただきたい。天然記念物のヒシクイや絶滅の危険度が高いクマタカに関しては、是非ともストライクを避けたいのだということも明記していただきたい。

また先ほど申したように、調査に関してはこういった点が限界であるということも明記していただきたい。

- ・【丸山会長】パブコメ資料については、素案ができた段階で委員の方々に共有するということがよいか。

⇒【事務局】その通りである。

- ・【丸山会長】ワークショップ等において、マップがどのように活用されるのか、にかほ市のエネルギー政策上のどの位置づけとなるのか、地域の何になるのかという意見が多く出た。それについて、ゾーニングマップの活かし方や事業者向けのガイドラインのような配慮事項の情報は、報告書にまとめる必要がある。もしパンフレットに整理するのであれば、現段階では項目のみで内容は空白でもよいが、最終的にはそういった情報をまとめる予定だということは示しておいてもよいと考える。ただ、マップとその解説資料だけをパブコメ資料とすると、そういった情報をどれだけパブコメ資料に入れるかということは要調整となる。

⇒【事務局】仰る通り、ワークショップ等において、地域に対してどれだけメリットがあるのかなどという意見が数多く出ていた。そういった意見について、たとえ空欄であっても、事業者向けの配慮事項や工夫の仕方のような情報を示し、パブコメ資料においてもそういった項目を整理する予定であることは示したいと考えている。活用方法についても承知した。また資料の出し方については、この場では回答できる状況ではないため、こちらで素案を作成の上、皆様に共有させていただきたい。

⇒【丸山会長】直前の資料送付ということもあり、宿題になってしまって申し訳ないが、資料4を見て頂き、素案が出る前でも個別にご意見いただければと考えている。

⇒【事務局】言葉遣いやフォント等は事務局において修正中であることも踏まえ、専門的な内容についてのご意見があれば、素案をお送りする前にでもご意見をいただけると幸甚である。

⇒【丸山会長】鳥類に関しては秘匿すべき情報もあるかと思うため、是非、加藤委員と個別にご相談の上、ご検討頂きたい。

- ・【佐々木企画調整部長】本日はお集まりいただきありがとうございました。最終年度ということで、今後詰めの作業に入っていくにあたり、住民の方々に対してどういった見せ方をすればよいのか、どういった働き方をすればよいのかというデリケートな部分を持ちながらも、毅然としたところで示していかなければいけないという非常に難しい側面を持っていると感じた。その中で、先生方からのご意見を踏まえ、示すべきものは示し、グレーなところは市としての政策的な考えを反映させていきながら、最終的なゴールを目指していきたいと考えている。

以上